

意欲的に体を動かしたくなる 「体力向上の仕組み」づくり

三次市立青河小学校

全児童生徒数	17名 (男子11名 女子6名)
全クラス数	4クラス (特別支援学級1クラス)
TEL	0824-68-2349

1 課題と目的

(1) 取組時の課題

平成30年度の新体力テストの総合評価においては、AB率82.4%と、本校の設定目標値に及ばなかった。

(2) 取組の目的

- ・自己の課題を自覚させ、目標を持って意欲的に体力づくりに取り組ませる。
- ・新体力テスト総合評価のAB率を85%以上にする。

2 主な取組の内容

(1) 児童主体の運動遊びの仕組みづくり

- ・毎週木曜日の大休憩(20分間)に「ハッピータイム」と称した全校遊びを行う。企画・運営は輪番制で学級ごとに担当する。
- ・月2回木曜日にロング昼休憩(45分間)を設け、そのうち1回は、児童会が企画・運営する「青河杯」(運動大会)を実施する。

(2) 行事と連携した体力向上の仕組みづくり

- ・体育的行事前には、昨年度までの自己記録をもとに本年度の自己目標を設定する。
- ・練習記録をカードに記入し、自分の努力の過程を見える化する。

(3) 課題種目克服の仕組みづくり

- ・全校統一の月別課題種目と練習方法を児童に示し、その練習を家庭学習に位置付ける。
- ・家庭学習の取組を「体力アップチャレンジカード」に記録する。
- ・月初めと月末に記録を測定し、伸びを比較する。

3 取組で工夫したところ

(1) 児童主体の運動遊びの仕組みづくり

「ハッピータイム」「青河杯」では、運動が苦手な児童も楽しめるルールを考えるよう指導した。

(2) 行事と連携した体力向上の仕組みづくり

自発的な練習を促すため、教職員の準備と、児童への告知及び自己目標の設定指導は、体育的行事の1か月前に行った。

(3) 課題種目克服の仕組みづくり

運動の得意な児童の向上心を高めるために、新体力テストの県平均値と本校のベスト3記録を校内に常掲した。また、運動の苦手な児童も毎日の体力づくりに取り組めるように、「5分間」でできる課題克服の練習法を示した。

4 成果と今後の課題

(1) 成果と波及効果

- ・新体力テスト総合評価のAB率は、88.2%と前年度よりも向上し、設定目標値を超えた。
- ・運動に対する積極性や意欲が高まり、校外の陸上大会に参加する児童が増えた。参加率:平成28年度50%⇒令和元年度87%(内63%の児童が3位以内入賞)
- ・運動の得意・不得意に関わらず、運動を楽しめるよう企画する高学年のリーダー性が高まった。

(2) 今後の課題

児童の運動遊びの内容が偏っているため、「運動遊びハンドブック」を活用して、様々な運動遊びを紹介する。



児童会主催「青河杯」

毎月、違った種目で運動大会を行います。



全校児童で取り組む一輪車

全校児童で教えあい、運動会で披露します。



課題種目の月末記録会

月初めの記録会結果と比較します。